

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部観光課

市民経済部長 滝本 均

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-002	観光サイン設置事業	なし	B	HOTORIイベント等で多くの観光客が利用する蔵のまち公園(荒古町2丁目)に、周辺地図及び観光施設を紹介する観光案内板1基を新設し、観光客が半田運河周辺を回遊する際の利便性の向上を図ることができた。	現状維持	令和2年度は「ごんの秋まつり」等で多数の観光客が訪れる岩滑エリアに設置されている木製案内板の一部(3基)が腐食損傷しているため、金属製案内板に付け替える。その他の歩行者誘導系サインも老朽化が進んでいるため、今後、順次取り替えし、観光客の利便性向上を図っていく。
12-004	半田運河活性化事業	あり	B	2月下旬からの新型コロナウイルスの影響によるイベント中止や、観光施設等の休館により半田運河周辺観光入込客数の目標値は達成できなかったが、半田運河HOTORIイベント(brunch、SAKABA、朝市)やCanal Night、和文化に親しむイベント(萬三の白モッコウバラ祭、着物でまち歩き)の実施により、半田運河の新たな魅力の創出と活性化につなげることができた。また、写真掲載を中心としたブランディングブックを作成しPRをすることで、半田運河の知名度とイメージを図ることができた。	拡充推進	HOTORI SAKABA、brunchやCanal Night等半田運河周辺イベントは来場者が集中するイベントであるため、新型コロナウイルス感染症が収束するまでは開催が困難であるが、感染症収束後の反転攻勢を見据えた事前のPRとして、半田運河のPR誌の作成やホームページ、SNSを活用したプロモーションに取り組んでいく。
12-005	観光振興事業	あり	B	市内飲食店・土産店等をお得に回遊することができる「めぐりんチケット」を作成し、市内の観光施設を訪れた観光客を市内飲食店等に誘導し、回遊しながら消費していただく仕組みを新たに作った。また食の観光として新たに「尾州早寿司」を始めとした市内寿司店の紹介冊子等を作成し、尾州早寿司の認知度を向上させ、効果的にPRできた。新型コロナウイルスの影響により、名鉄タイアップ「いいかも半田キャンペーン」等一部の誘客事業を延期・中止したため、年間の観光入込客数は目標値を達成できなかったが、令和2年2月末までの数値は前年度を上回っており、3月において観光施設等が開館していれば目標値を達成できていたものと推測する。	拡充推進	新型コロナウイルス感染症の影響により、当面は一局集中的な集客イベントは開催できないが、感染症の収束状況を見極めながら、寿司をPRする食の観光や市内飲食店を巡ってもらう取り組みを順次進めていく。また、国や県の支援制度の動向を注視しながら、反転攻勢に向けた取り組みを準備していく。新たな取り組みとしては、ストップモーションアニメ「ごん」の全国展開と連携した半田市観光のPRを実施し、新たな誘客需要の掘り起こしを図っていく。
12-006	半田市観光協会支援事業	あり	B	令和元年度はインターネットによる情報発信に注力し、積極的に市内の観光施設・イベント・飲食店等の情報をSNS・ホームページにおいて発信することで、観光客誘客に寄与した。アイブラザ半田観光案内所は令和元年8月から令和2年3月までアイブラザ半田が大規模改修により閉鎖していたため、観光案内所の利用者数は対前年度比で半減した。クラシティ内の知多半田駅前案内所は前年度と同程度の利用者数があり、観光客への案内やおもてなしに対応することができた。	改善推進	令和2年度は元年度以上に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、観光客の来訪は減少すると推測される。感染症が収束するまでの間、SNS・ホームページ等のインターネットを活用し、半田市の魅力の情報発信を強化することで、収束後の半田市への来訪につながる取り組みをしていく。
12-007	アイブラザ半田管理運営事業	あり	B	大規模改修工事の工期延長や令和2年3月4日からの新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に伴う臨時休館により、利用者数等の目標値の達成はできなかったが、半田運河周辺での各種イベントの開催などを通じて、観光案内所や蔵のまち東駐車場の利用者が増加し、令和元年4月～7月の観光立寄客数は、前年度比120.4%となった。	改善推進	半田市の観光の魅力をPRする企画展を開催するなど、観光立寄客数の増加を図る他、観光立寄客へは貸館施設のPR、貸館利用者へは観光PRを行い、相乗効果を活かした施設運営を行っていく。新型コロナウイルス感染症の影響による長期休館や開館後の人数制限などにより、利用客が遠のくことが懸念されるが、感染防止対策を徹底しながらも利用客数の回復を図っていく。

整理No	事務事業名	3か 年実 設計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
12-008	半田赤レンガ建物 管理運営事業	なし	B	新型コロナウイルス感染拡大の影響により3月4日から閉館対応を取ったため、年間来場者数の目標値は達成できなかったが、本格的なドイツの食・音楽・文化にこだわった「ドイツフェスティバル」の開催やガイド付きでカフトビールの飲み比べもできる「カフトビールツアー」などの実施により、2月までの来場者数は前年度を上回ることができた。また、クラブハウスの利用については、企業による利用が増え、前年度を上回ることができた。	拡充 推進	令和2年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響による閉館を強いられることとなるが、開館後は感染防止対策を徹底しつつも来館者の増加とおもてなしの充実を徐々に図っていく。また、感染症収束後は、イベント開催も含めた誘客を再開していく。
12-009	半六庭園管理運営 事業	なし	C	庭園内の公衆トイレの維持管理、緑地管理等を適切に実施することで、半田運河を訪れた観光客・市民の憩いの場を提供することができた。また、令和元年度は半田運河周辺でのHOTORIイベントの会場として半六庭園を度々活用し、その雰囲気を生かした企画等を通じて、来訪者に半六庭園の魅力を発信することができた。目標値である来園者数は令和2年2月までは前年度を上回っていたが、新型コロナウイルスの影響により3月期が前年比約5.3千人の減少となり、全体としては前年度を下回ることとなった。	現状 維持	来園者のおもてなし・憩いの場として引き続き快適な環境の維持に努める。また開園から5年が経過し、工作物等に劣化・損傷が発生している箇所もあるため、必要に応じて修繕を実施していく。令和2年度は、塗装剥がれが散見される外壁の一部再塗装を実施する。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
C	半田運河CanalNightなどのHOTORIイベントは、回数、内容を充実したことにより来場者にも好評であり、運河の新たな魅力の創出と知名度・イメージ向上を図ることができた。また、「寿司」を前面に押し出した食の観光の取り組みは、観光客に好評だっただけでなくおもてなし側の店舗のモチベーションアップにもなり、新たな誘客コンテンツとして令和2年度での事業拡大につなげることができた。指定管理者が運営した半田赤レンガ建物は、新たにドイツフェスティバルを企画開催するなど、魅力向上を図ることができた。以上のような効果的な事業を推進することにより、最も基本的な成果指標である観光入込客数は順調な伸びを示していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う3月以降の観光施設の閉鎖及び集客イベントの中止の影響により、年間の入込客数は目標値を31千人下回る結果となった。アイブラザ半田は、天井改修、空調機更新、照明のLED化などの大規模改修工事を適切に実施し、利用者の安全の確保や利便性の向上を図ることができた。なお、市民に新型コロナウイルスの感染者が出たことを受け、半田赤レンガ建物とアイブラザ半田は他の市の公共施設と同様3月4日より閉館し、観光客及び市民の利用に不便をかけることとなった。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	不可抗力とはいえ、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大や半田市民の感染者発生の影響により、3月期における観光振興施策は停止せざるを得ない状況となった。その結果、年間の観光入込客数は昨年度より11千人減少(△0.7%)、目標値も31千人下回った(△1.8%)が、2月期までにHOTORIイベント等集客イベントの積極的な開催、各種プロモーションの展開、新たな食の観光の推進等の施策が効果を上げ、年間の落ち込みを微減に止めたことは評価できる。令和2年度における観光を取り巻く情勢は、当面はコロナ渦の影響による停滞状況は続くものと予測されるが、経済再生のための反転攻勢期には、市内での消費拡大を主眼に置いた施策の展開を進める。中長期には、生活様式や意識の変化に伴い、観光需要の内容に変化が生じる可能性があるため、今後の社会情勢を見極める中、有効な観光振興施策を模索していく必要がある。					